

# 小豆島中央病院 帝王切開術についての説明書

ID

患者氏名

様

年齢

歳

私共はあなたの分娩について、経膈分娩よりも帝王切開手術を選択することが総合的に考えて有利であると判断しました。赤ちゃんの安全や母体の健康が最終目標です。

## [診断名]

これまでの経過や検査結果、既往歴から判断されるあなたの診断名は、  
児頭骨盤不適合(不均衡)、前回帝王切開既往、前置胎盤、胎児機能不全 子宮筋腫核出後、骨盤位、横位、子宮内感染、妊娠高血圧症候群、過期妊娠、回旋異常、軟産道強靱症、微弱陣痛、筋腫合併妊娠、産道のヘルペス感染、癒着胎盤、陣痛が強くても分娩が進まない場合、その他\_\_\_\_\_です。

これは手術前の診断ですので、術中、術後に診断名が追加変更されることもあります。

## [手術内容]

帝王切開術とは、開腹した上で子宮下部を横切開して、そこから胎児を出産させる方法です。

予定しております手術内容は、  
腹式帝王切開術、卵管結紮術(不妊手術)、その他\_\_\_\_\_です。  
これは術前の現時点での予定です。そのため術中に手術内容を追加・変更する場合があります。なお、術中にあなたが目覚めている場合には、手術内容の追加・変更についての選択をして頂く場合がありますが、あなたが眠っている場合には、代理人(ご家族など)に選択していただくこともあります。

## [麻酔方法]

麻酔方法(全身麻酔もしくは腰椎麻酔)は、母児の状態により選択します。

腰椎麻酔は、横を向いて寝た状態で、背中(脊髄髄膜腔)に針を刺して麻酔薬を注入する方法です。腹部以下の麻酔で意識は残ります。

全身麻酔は、静脈から麻酔を行った後に喉(気管)に管を入れて、ガス状の麻酔薬を吸入することによる麻酔で、完全に眠った状態となります。

麻酔方法については、可能であれば母児の副作用が少ない腰椎麻酔で行うことを原則とします。しかし緊急性が高い場合は、全身麻酔を選択いたします。

## [手術時間]

予定している手術時間は1時間程度です。麻酔を含めると2時間程度になります。開始時刻については、予定が変わる場合があります。

## [個人差]

同じ病名でもそれぞれの患者さまで病状や術後の経過は異なります。他にも併発している病気(高血圧、糖尿病等)も様々です。そのため、現在の病状に対する外科的治療の危険度、術後経過、予後および術後の日常生活の制約には個人差があります。あなたの入院期間は約10日間を予定していますが、術後の回復度により入院日数は異なることもあります。

## [手術の前準備について]

手術当日0時以後の食事は禁止されます。胃を空にしておくことで、麻酔中の嘔吐などの危険を低くするためですので、ご理解ご協力をお願いします。

脱水予防の目的で、術前に点滴が行われます。飲食された場合、手術の開始時間が遅れたり、中止、延期となったりする場合がありますので、ご注意ください。

## [手術による合併症について]

### 1. 出血、輸血

帝王切開術時に特に前置胎盤や癒着胎盤で出血が多く止血しにくい場合には、輸血ややむを得ず子宮摘出を必要とすることがあります。

血流の豊富な組織や大きな血管を傷つけたり、広い範囲の癒着をはがしたりしたときに大量の出血が起きることがあります。止血操作が難しく、出血量が多くなる場合はクロスマッチをした保存血輸血を行い、さらに出血が続けば危機的出血のためのガイドラインに従い交差適合試験を省略した同型血の輸血を行うことがあります。また、輸血では、献血者の持っている感染症(肝炎、エイズ、その他)に何千～何十万分の1の確率でかかることが報告されております。

他にも血液に対するアレルギーや、GVDH(献血者の白血球が受血者の組織に対して拒絶反応を起こす)などの危険性もあります。GVDHは非常に稀ですが、いったん起こると高い確率で死亡します。輸血を行う場合は別の説明・同意書に署名をいただきます。

### 2. 臓器損傷

子宮の前には膀胱、後ろに直腸があり、すぐ横には尿管があります。また近くに腸や大血管などもあります。手術操作が困難な時、癒着などで通常とは違う位置に臓器がある場合、手術の視野がとりにくい場合、などにこれらの臓器を傷つけることがあります。もし、臓器損傷などが起きた場合には、適切に対処を行います。修復には術式の変更を必要とすることもあります。また、後日に臓器損傷などの合併症が判明した場合には、再手術となることもあります。その際、状況によっては長期の入院が必要となります。

### 3. 感染症

腹腔内は通常は無菌状態です。しかし、手術により腹腔が解放されると、腹腔内で細菌が繁殖して、腹痛や発熱を伴う腹膜炎などが起きることがあります。手術前後には、抗生物質を投与して感染症を予防しますが、抗生物質の種類を変えても無効な場合は、手術的な処置必要となることもあります。

### 4. 血栓、塞栓症

術中や術後の安静などによって、足や骨盤内などの静脈血が固まって血栓をつくる場合があります。この血栓が血液中に乗って肺や重要な臓器に流れ、詰まらせて血流を止めてしまう病気が塞栓症です。突然の胸部の痛み、呼吸困難などで発症し、肺の血管が広範囲に詰まると呼吸をしても酸素が取り込まれず、致命的となる場合があります。妊娠、肥満、高血圧症、血管の疾患、長時間の手術、腹腔鏡手術、手術の体位、などによってもその危険性は高くなります。この予防のために、当科では「弾性ストッキング」を履いていただくことになっています。入院後に看護師が足のサイズを測り、当日朝に着用していただきます。高度肥満や血栓傾向などのハイリスク症例と判断される場合には追加予防策として血液を固まりにくくするヘパリン製剤や足をマッサージする器械(メドマー等)を状況に応じて使用します。

### 5. その他の合併症など

術後から退院までに、出血、痛み、発熱、排尿障害、腸管麻痺、腎機能障害、貧血、縫合不全などの症状があれば、適切な対処をします。また、術後長期間経ってからの腸閉塞なども、ごくまれに報告されています。

質問等は、主治医またはスタッフまでお問い合わせください。また、術後の患者さんご自身の自覚症状から多くの術後合併症が判明することがあります。少しでも気になること、おかしいことなどがありましたら、いつでもお申し出ください。

説明日：            年        月        日

小豆島中央病院 産婦人科

医師

㊞

## 小豆島中央病院での帝王切開術についての同意書

私は、 \_\_\_\_\_ 様に対し、下記の事項について説明しました。

1. 手術名 腹式帝王切開術 卵管結紮術(不妊手術)  
別紙書類 無 有 ( \_\_\_\_\_ )
2. 麻酔方法 全身麻酔法 脊髄くも膜下麻酔法  
硬膜外麻酔法 伝達麻酔 局所麻酔
3. 実施予定日時  
令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
午後

小豆島中央病院 産婦人科 医師

上記の手術について、担当医師から内容や予後等の説明を十分に受け、必要性及び危険性等について理解したうえで同意します。

\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

小豆島中央病院長 殿

患者 氏名 \_\_\_\_\_ ①  
住所 \_\_\_\_\_

患者代理人 氏名 \_\_\_\_\_ ① 続柄 \_\_\_\_\_  
住所 \_\_\_\_\_